首都圏からのアクセス

電車の場合

■東武鉄道「浅草駅」から
東武伊勢崎線特急りょうもう号
→「館林駅」(約１時間)
→「足利市駅」(約１時間10分)
→「新桐生駅」(約１時間40分)

車の場合

■東北自動車道「浦和IC」から
→東北道「館林IC」(約40分)
※館林市街へ
東北自動車道「岩舟JCT」経由で
北関東自動車道へ
→北関東道「足利IC」(約１時間)
※足利市街へ
→北関東道「太田桐生IC」(約１時間10分)
※桐生市街へ

【足利市 日本遺産のみどころ】

■足利学校跡
［聖廟および附属建物を含む］(国史跡)
■漢籍　『礼記正義』『尚書正義』
『文選』『周易注疏』(国宝)
■釋奠(せきてん)（市民俗文化財）

【桐生市 日本遺産のみどころ】

■白瀧神社（ぐんま絹遺産）
■旧模範工場桐生撚糸合資会社事務所棟
（市重文／ぐんま絹遺産）
■桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区
（国重伝建／ぐんま絹遺産）
■後藤織物(国登録／ぐんま絹遺産)
■織物参考館“紫”(国登録／ぐんま絹遺産)
■桐生織物会館旧館(国登録／ぐんま絹遺産)

【足利市 日本遺産のみどころ】

■茂林寺沼及び低地湿原（県天然記念物）
■多々良沼
■城沼
■封内経界図誌（県重文）
■躑躅ヶ岡（国名勝）
■正田醤油(株)旧店舗・主屋（国登録）
■分福酒造店舗（国登録）
■旧館林二業見番組合事務所（国登録）
■東武鉄道館林駅
■蛇沼及び間堀遺跡出土品
■近藤沼(ホリアゲタ)　を含む全42個

問合せ先

■認定団体
教育遺産世界遺産登録推進協議会
(水戸市教育委員会事務局　歴史文化財課)
〒310-8610 茨城県水戸市中央 1-4-1
Tel：029-306-8132　Fax：029-297-6187
E-Mail：isan@city.mito.lg.jp

■担当部署
【日本遺産「近世日本の教育遺産群」について】
足利市教育委員会事務局
文化課　文化財保護・世界遺産推進担当
〒326-8601 栃木県足利市本城３丁目2145
Tel：0284-20-2230　Fax：0284-20-2207
E-Mail：bunka@city.ashikaga.lg.jp

【観光について】
足利市　産業観光部
観光まちづくり課　観光・ロケツーリズム担当
〒326-8601 栃木県足利市本城３丁目2145
Tel：0284-20-2165　Fax：0284-20-2207

問合せ先

■認定団体
かかあ天下ぐんまの絹物語協議会
(群馬県地域創生部文化振興課)
〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1-1-1
Tel：027-226-2326　Fax：027-243-7785
E-Mail：bunshinka@pref.gunma.lg.jp

■担当部署
【日本遺産「かかあ天下」について】
桐生市　産業経済部
日本遺産活用室　日本遺産活用担当
〒376-8501 群馬県桐生市織姫町1番1号
Tel：0277-46-1111（内線 346）
Fax：0277-43-1001
E-Mail：nihonisan@city.kiryu.lg.jp

【観光について】
桐生市　産業経済部
観光交流課　観光振興担当
〒376-8501 群馬県桐生市織姫町1番1号
Tel：0277-46-1111（内線 369）
Fax：0277-43-1001
E-Mail：kanko@city.kiryu.lg.jp

問合せ先

■認定団体
館林市「日本遺産」推進協議会
〒374-8501 群馬県館林市城町１番１号
Tel：0276-71-4111　Fax：0276-74-4113

■担当部署
【日本遺産「里沼」について】
館林市教育委員会事務局
文化振興課　日本遺産推進係
〒374-0018 群馬県館林市3番1号
Tel：0276-71-4111　Fax：0276-74-4113
E-Mail：nihonisan@city.tatebayashi.lg.jp

【観光について】
館林市　経済部
つつじのまち観光課　観光振興係
〒374-0005 群馬県館林市花山町 3181
Tel：0276-74-5233　Fax：0276-72-9122
E-Mail：kankou@utyututuji.jp

両毛３市連携 「令和４年度　日本遺産シンポジウム in 足利」 ダイジェスト版
「人を育み“日本”を支える　両毛３都」(栃木県足利市・群馬県桐生市・群馬県館林市)
発行日：令和５(2023)年３月３１日
発　行：足利市、足利市教育委員会
協　力：桐生市産業経済部日本遺産活用室、館林市教育委員会事務局文化振興課日本遺産推進係
編　集：足利市教育委員会事務局　文化課　文化財保護・世界遺産推進担当

JAPAN HERITAGE
日本遺産

両毛３市連携事業

令和４年度 日本遺産シンポジウム in 足利市

～人を育み“日本”を支える 両毛３都～

栃木県足利市・群馬県桐生市・群馬県館林市

群馬県と栃木県にまたがる両毛(りょうもう)地域。「両毛」とは、古代律令時代の「上毛野国(かみつけのくに)（今の群馬県）」と「下毛野国(しもつけのくに)（今の栃木県）」を意味します。この両毛地域にある３市（桐生市・足利市・館林市）は隣り合っていて、それぞれ異なるストーリーで日本遺産に認定されています。

この両毛３市では、令和３(2021)年２月に「日本遺産 両毛３市連携共同宣言」を締結し、日本遺産を活かしたまちづくりや観光振興を推進するとともに、その魅力を国内外に発信し、地域活性化に繋げるための取り組みを進めています。

足利市　＃１　近世日本の教育遺産群
—学ぶ心・礼節の本源—

足利学校

■認定　平成 27(2015)年４月 24 日
■形式　シリアル型
水戸市(茨城県)・足利市(栃木県)・備前市(岡山県)・日田市(大分県)

■ストーリー概要
日本では、近代教育制度の導入前から、支配者層である武士のみならず、多くの庶民も読み書き・算術ができ、礼儀正しさを身に付けるなど、高い教育水準を示した。
これは、藩校や郷学、私塾など、様々な階層を対象とした学校の普及による影響が大きく、明治維新以降のいち早い近代化の原動力となり、現代においても学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性として受け継がれている。

#2　かかあ天下
—ぐんまの絹物語—

後藤織物

■認定　平成 27(2015)年４月 24 日
■形式　シリアル型
群馬県(桐生市・甘楽町・中之条町・片品村)

■ストーリー概要
古くから絹産業の盛んな上州では、女性が養蚕・製糸・織物で家計を支え、近代になると、製糸工女や織手としてますます女性が活躍した。夫(男)たちは、おれの「かかあは天下一」と呼び、これが「かかあ天下」として上州名物となると共に、現代では内に外に活躍する女性増の代名詞ともなっている。
「かかあ」たちの夢や情熱が詰まった養蚕の家々や織物の工場を訪ねることで、日本経済を、まさに天下を支えた日本の女性たちの姿が見えてくる。

#70　里沼(SATO - NUMA)
—「祈り」「実り」「守り」の沼が築き上げた館林の沼辺文化—

多々良沼

■認定　令和元(2019)年５月 20 日
■形式　地域型（館林市単独）

■ストーリー概要
館林の沼は人里近くにあり、「里山」と同様に人々の暮らしと深く結びつき、人が沼辺を活かすことで良好な環境が保たれ、文化が育まれてきた「里沼」であった。
館林の里沼は沼ごとに特性が異なる。里沼の原風景と信仰が共存する茂林寺沼「祈りの沼」、沼の恵みが暮らしを支えた多々良沼は「実りの沼」、館林城とつつじの名勝地を守ってきた城沼は「守りの沼」と言い換えることができる。館林の里沼を辿れば、それぞれの沼によって磨き上げられた館林の沼辺文化を味わい、体感することができる。

■日本遺産シンポジウム in 足利 ～人を育み“日本”を支える両毛３都～

《開催日》令和５年２月５日(日)《会場》栃木県南地場産業振興センター(足利市田中町)
13：30　開会　主催者あいさつ
第１部　日本遺産ストーリー映像紹介
第２部　足利カンマーオーケスターによる弦楽五重奏
① The Song of Life（TBS「世界遺産」テーマ曲）②めぐり逢い
③チャイコフスキー弦楽セレナーデより第二楽章　④故郷　⑤八木節
第３部　パネルディスカッション「日本遺産で人を育みあおう」
→パネルディスカッションの詳細は本紙裏面
16：00　閉会
《主催》足利市・足利市教育委員会
《共催》教育遺産世界遺産登録推進協議会 / 桐生市 / かかあ天下ぐんまの絹物語協議会 / 館林市 / 館林市教育委員会 / 館林市「日本遺産」推進協議会
《後援》一般社団法人足利市観光協会 / 一般社団法人桐生市観光物産協会 / 館林市観光協会 / 株式会社足利銀行 / 株式会社群馬銀行

日本遺産とは？　日本遺産 JAPAN HERITAGE

❖日本遺産は平成27(2015)年に文化庁が創設した制度で、地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化や伝統を語るストーリーを、日本遺産として認定するものです。認定最終年の令和２(2020)年までに、国内で 104 件が認定されています。
❖従来の文化財行政が、個々の歴史的遺産を点として指定することで保存してきたことに対し、日本遺産は点在する個々の遺産をストーリーとしてつなぐことで、面的活用、魅力発信することを目的としています。
❖毎年２月13日は「日(２)本遺(１)産(３)の日」となっています。

テーマ
「日本遺産で人を育み合おう」

令和３(2021)年２月21日、館林市で開催された日本遺産シンポジウムで、足利市、桐生市、館林市は今後の連携に向けて「日本遺産　両毛３市共同宣言」を締結しました。

令和４(2022)年２月５日に桐生市で開催された３市連携パネルディスカッションでは、今後の取組に向けたキャッチフレーズを「人を育み “日本” を支える両毛３都」とすることを決定。

今回、足利市でのシンポジウムは、最初の３ヶ年をまとめる内容となっています。

コーディネーター

高崎商科大学特任教授
熊倉（くまくら） 浩靖（ひろやす）さん

昭和28年(1953)群馬県高崎市生まれ。京都大学理学部中退。群馬県立女子大学教授を経て高崎商科大学特任教授。現在、群馬県文化審議会副会長、(公財) 大川美術館（桐生）・(公財) 竹久夢二伊香保記念館（渋川）評議員等。

パネリスト

足利市
早川（はやかわ） 尚秀（なおひで）市長

昭和47年(1972)足利市生まれ。早稲田大学卒業。栃木県議会議員を５期務め、令和元年(2019)には栃木県議会議長に就任。令和３年(2021)４月、足利市長に就任。足利学校を含めた近世日本の教育遺産群の世界遺産登録を目指している。

桐生市
荒木（あらき） 恵司（けいじ）市長

昭和33年(1958)桐生市生まれ。青山学院大学卒業。社団法人桐生青年会議所副理事長などを歴任。桐生市議会議員、群馬県議会議員を経て、令和元年(2019)５月、桐生市長に就任。日本遺産の活用に力を入れている。

館林市
多田（ただ） 善洋（よしひろ）市長

昭和35年(1960)館林市生まれ。日本大学卒業。民間企業を経て館林市議会議員を３期、群馬県議会議員を２期務める。令和３年(2021)3月、館林市長に就任し、「里沼！感動体験」をテーマに日本遺産を推進している。

パネルディスカッションへの導入

熊倉さん
- 両毛３市での日本遺産シンポジウムも、今回で３回目になった。
- 今回は、３つのテーマを考えている。
  ①前回の桐生市シンポジウムから１年間の間で、どんな歩みがあったか。
  ②今後、日本遺産を活用し進めていく、新しい動きは何なのか。
  ③両毛３市に関わるすべての人々、すべての団体が、資産を生かして、どのように私たちが暮らし続けたい地域をつくっていくか。
- 最後に、③についての合意をとっていきたいと思う。

テーマ①　前回（令和３年度）のシンポジウムから１年の振り返り

早川足利市長

【インバウンドに向けた事業】
- 日本遺産の展示パネルやパンフレットをリニューアル。英訳を付け、観光情報も掲載した。
- 文化庁に提出した「世界遺産暫定一覧表記載候補提案書」の概要を英訳したものを発行。

【次世代に向けた事業】
- 足利市の小学生が水戸市を訪問し、日本遺産への理解を深めてもらう「日本遺産こども交流事業」を実施した。

【文化財×観光×経済の好循環づくり】
- 足利学校のライトアップイベントや門前でのマルシェ等を開催することで、多くの人を呼び込み、回遊していただける事業を展開。コロナ禍で疲弊した市内経済の活性化につなげたい。

荒木桐生市長

【市民向けの普及啓発】
- 日本遺産構成文化財の重伝建地区選定１０周年を記念し、親子で楽しみながら日本遺産構成文化財や観光地をめぐるデジタルスタンプラリーを実施した。

【小・中学生による観光ガイド育成】
- 産官学民で取り組む桐生独自の教育プログラム「未来創生塾」では、塾生親子を対象に、日本遺産についての講義、施設見学を実施。修了した塾生７人を「桐生ジニュアアンバサダー」に認定した。参考客のリピートのスタイルが「人に会いにもう一度行こう」に変わってきている。「この小・中学生の観光ボランティアガイドから来年はどんな話が聞けるんだろう」と思って再訪していただけるよう、子供たちのガイド育成に力を入れて取り組みたい。

多田館林市長

【自主財源の確保】
- 全国の個人や企業から寄せられた「ふるさと納税」を、日本遺産事業の財源とした。地元の館林信用金庫からの支援もいただけることが決定した。

【３つの目標と４つの成果指標】
- 地域活性化の度合いを測るため、目標と成果指標を設定している。目標は(1)里沼の継承・発展、(2)シビックプライドの醸成、(3)交流人口の増加の３つを掲げている。
- ４項目ある成果指標のうち、《小・中学生の「里沼」認知度》について令和４年度に調査したところ87.29%という嬉しい結果となった。着実にシビックプライドが醸成されてきていると実感している。

テーマ②　日本遺産に関係する新たな動き

早川足利市長

【教育遺産群としての新たな活動】
- 令和５年度に足利市で日本遺産構成文化財を巡るツアーを造成する予定。
- 海外の研究者を招き、「近世日本の教育遺産」の世界遺産登録を推進するための国際シンポジウム開催を検討している。教育遺産に関わるストーリーがさらに成熟することを期待している。

【足利学校の新たな展開】
- 足利学校を会場に、親子向け伝統文化体験教室を開催した。また、コロナ禍で遠出しにくい社会情勢もあり、校外学習や修学旅行の訪問先として足利学校が選ばれている。学業成就を願いに、足利学校稲荷社を訪問する方も多い。
- 足利市観光協会の協力を得ながら、足利学校を市内観光の拠点とし、日本遺産の認知度も向上させていきたい。

荒木桐生市長

【認定地域連携の強化】
- 令和５年度に日本遺産フェスティバルが開催される、東京都八王子市のプレイベントに参加した。八王子市は「桑都（そうと）」、桐生は「織都（しょくと）」と呼ばれ、どちらも織物が盛んである。これからもイベント等を通じて交流を続けていきたい。

【伝建地区での公開活用施設の整備】
- 桐生新町伝統的建造物群保存地区への人の流れを作るため、周辺の路地や辻を石畳に見直そうと考えている。また、重伝建地区内も電線地中化などを実施し、調和のある地区に整備していきたい。地区内にある眞尾邸（ましおてい）を整備して拠点化したり、近くの公園に観光トイレを設置したりといった方向で話を進めているところ。

多田館林市長

【里沼わくわくビレッジ構想】
- 前回のシンポジウムで「里沼！感動体験」というキーワードを示した。沼の見学だけに留まらず、食や体験プログラムを含めたモデルコースを作成している。これをさらに具体化したものを「里沼わくわくビレッジ」と題して展開。城沼周辺を周遊し、一日中楽しめるエリア形成を進めている。

【プレーヤーとなる人材発掘】
- 日本遺産を活用したまちづくりに実際に取り組む活動者やプレーヤーを講師に迎えた「里沼セミナー」を開催した。館林市が抱える、ガイド活動者の減少、「里沼」関連商品やサービスの造成、館林紬や館林織物の技術伝承など様々な課題を解決する、地元プレイヤーの育成を視野に入れている。

テーマ③　市長から市民や民間団体へ求めたいこと

早川足利市長

【市民ひとりひとりがガイドに】
- 足利学校の日本遺産認定から８年。改めて市民ひとりひとりが足利学校や日本遺産について理解を深め、案内できるガイドになれたら素晴らしい。日本遺産を学ぶ場として「世界遺産・日本遺産出前講座」をぜひ活用してほしい。

【市民×企業×行政での活用】
- 企業や市民団体がもつノウハウやネットワークをもとに、日本遺産「近世日本の教育遺産群」を良い方向に持っていくための提案をいただきたい。行政としてサポートしていく。

荒木桐生市長

【日本遺産こどもガイドの進化】
- ジュニアアンバサダーに認定した子どもたちのガイド力向上のため、受講生が自らプランを立てたり、観光客の目に留まるＰＲ方法を話し合ったりする取り組みを進めていきたい。こうした意識づけのため、さらに一歩踏み込んだ「ジュニアガイドマイスター」認定も行っている。

【相互に応援し合う意識づくり】
- 「自分にはない特徴を、皆で応援していこう」という考えを、３市に当てはめてもよいと思う。互いに応援し合い、自分の市の事のように頑張る。これが、日本遺産の連携体につながると考える。

多田館林市長

【対話による活性化】
- 市民や民間団体と共に歩んでいくことが大切だと考えている。私自身「対話」の重要性を意識しており、車座になっての報告会も開催している。こうした対話を重ねる中で、新たなチャンスをつかんでいきたいと考えているので、御意見をお寄せいただきたい。

【来訪者の満足度を高める再整備】
- 宿泊施設「つつじが岡パークイン」を里山体験の拠点として再整備するとともに、民間事業者から活用案を募集している。また、茂林寺沼の南岸にある市有地について、民間の意見も伺いつつ再整備を進めたいと考えている。

まとめ

熊倉さん
- 両毛３市連携の３年にわたる第１ラウンドが終わった。この中で私たちは、「それぞれの地域が本当に素晴らしい日本遺産を持っていること」や「お互いの地域について学び合い、応援し合い、伝え合うことが現実に可能であること」などを確認できた。
- 両毛３市連携のキャッチフレーズを「**人を育み “日本” を支える 両毛３都**」とした。足利学校も、桐生が生み出した織りの力も、里沼も、それぞれの特徴に基づく学びから、日本の発展を支える人材を育ててきた。この３つの貴重な経験が合流することで、21世紀から22世紀に向かって、もう一度 “日本らしい日本” というものを創り直していく大きな一歩になる。
- 両毛３市は、隣り合って、資産を持ち合っている恵まれた地域である。ここで暮らしている市民や企業の皆さんは、とても幸せだと思う一方で、もう一歩前に出て活動しなかったら、もったいないとも思う。これをどれだけ大きな形にできるか、次の３年間、また皆さんたちと活動していきたい。